

日蓮大聖人御書全集

いちだいごじず

一代五時図

新版
895
〜
901

いちだいごじず

一代五時函

りゆうじゆほさつぞう

竜樹菩薩造

だいろん

い

じゆうくしゆつけ

さんじゆうじようどう

じようほんおう

たいし

しつたたいし

大論に云わく

「十九出家、三十成道」

浄飯王の太子

悉達太子

とじゆんほつし

杜順法師

ちぎほつし

智儼法師

ごんだいじよう

ろくじつかん

権大乘 六十卷

けごんぎよう

華嚴経

けごんしゆう

華嚴宗

ほうぞうだいし

法蔵大師

さんしちにち

はちじつかん

三十七日 八十卷

ちようかんほつし

澄観法師

ぞういちあごんぎよう

増一阿含経

くしやしゆう

俱舎宗

せしんほさつ

世親菩薩

しょうじょうきよう
小乗経

ちゅうあごんぎよう
中阿含経

げんじょうさんぞう
玄奘三蔵

あごんぎよう
阿含経

ちようあごんぎよう
長阿含経

じようじつしゆう
成実宗

かりばつま
迦梨跋摩

じゆうにねん
十二年

ぞうあごんぎよう
雑阿含経

りつしゆう
律宗

どうせんりつし
道宣律師

にひやくごじつかい
二百五十戒

そう
僧

しょうじょうかい
小乗戒

ごひやくかい
五百戒

に
尼

ごかい
五戒

なんによ
男女

はっさいかい
八斎戒

なんによ
男女

ゆがろん
瑜伽論

ひやつかん
百卷

みろくぼさつぞう
弥勒菩薩造

げんじょうさんぞう
玄奘三蔵

権大乘 ごんだいじょう

深密經 じんみつぎょう

五卷 ごかん

唯識論 ゆいしきろん

世親菩薩造 せしんぼさつぞう

法相宗 ほつそうしゅう

慈恩大師 じおんだいし

曇鸞法師 どんらんほつし

六十卷 ろくじっかん

双卷經 そうかんぎょう 二卷 にかん

道綽禪師 どうしやくぜんじ

大集經 だいじつぎょう

淨土三部經 じょうどさんぶぎょう

觀經 かんぎょう 一卷 いつかん

淨土宗 じょうどしゅう

善導和尚 ぜんどうおしょう

阿彌陀經 あみだきょう 一卷 いつかん

法然房 ほうねんぼう

善無畏三藏

金剛智三藏

大日經 だいにちきょう 七卷 しちかん

不空三藏 ふくうさんぞう

方等部 ほうどうぶ

金剛頂經 こんごうちょうぎょう 三卷 さんかん

真言宗 しんごんしゅう

惠果和尚 けいかわじょう

蘇悉地經 そしつじきよう
三卷 さんかん

三十年 さんじゅうねん

楞伽經

十卷 じっかん

四卷 しかん

禪宗 ぜんしゅう

弘法大師 こうぼうだいし

慈覺大師 じかくだいし

智証大師 ちしょうだいし

達磨大師 だるまだいし

慧可 えか

僧璨 そうさん

道信 どうしん

弘忍 こうにん

慧能 えのう

権大乘
ごんだいじょう

百論
ひやくろん
提婆菩薩造
だいばぼさつぞう

般若
はんにゃ

中論
ちゅうろん
竜樹菩薩造
りゅうじゆぼさつぞう

三論宗
さんろんしゅう

興皇
こうこう

四十卷
しじつかん

十二門論
じゅうにもんろん
同
どう

嘉祥大師
かじょうだいし

吉蔵
きちぞう

七十二歳
しちじゅうにさい

大智度論
だいちどろん
同
どう

無量義經
むりょうぎきょう

「四十余年にはいまだ眞実を顕さず」
しじゅうよねん しんじつ あらわ

ほうべんりき

しじゅうよねん

しんじつ

あらわ

「方便力をもつて、四十余年にはいまだ真実を顕さず」

むりようむへんふかしぎあそうぎこう す

つい むじようぼだい

「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐるとも、終に無上菩提

じよう

え

ゆえん

ぼだい

だいじきどう

し

を成ずることを得ず。所以はいかん。菩提の大直道を知ら

ゆえ

けんきよう

い

るなんおお

ゆえ

ざるが故に、險逕を行くに、留難多きが故なり」

だいじきどう

い

るなんな

ゆえ

「大直道を行くに、留難無きが故なり」

けんろしゆう

顕露宗

さいひみつしゆう

最秘密宗

ぶつりゆうしゆう

仏立宗

実大乘

法華経

はちかねん

八箇年

ほっけしゅう

法華宗

てんだいしゅう

天台宗

し

「世尊せそんは法久ほうひさしくして後のち、要かならず当まさに真実しんじつを説きたもうべ

しょうじき

ほうべん

す

むじょうどう

と

「正直しょうじきに方便ほうべんを捨てて、ただ無上道むじょうどうを説くのみ」

しゆじゆ

どう

しめ

じつ

ぶつじょう

「種々の道しゆじゆを示すといえども、それ実じつには仏乗ぶつじょうのためな

り

いま

さんがい

みな

わ

う

なか

しゆじょう

「今この三界さんがいは、皆みなこれ我が有あなり。その中の衆生しゆじょうは、

ことごとくこれ吾が子なり。しかるに今この処は、諸の
患難多し。ただ我一人のみ、能く救護をなす。また教詔す
といえども、信受せず」

「もし人信ぜずして、この経を毀謗せば、則ち一切世間

の仏種を断ぜん。あるいはまた顰蹙して、疑惑を懐かん。

汝は当にこの人の罪報を説くを聴くべし。もしは仏世に

在るも、もしは滅度して後も、それかくのごとき經典を、

誹謗することあらん。経を読誦し書持することあらん者を

見て、軽賤憎嫉して、結恨を懐かん。この人の罪報を、汝、

いま ひと みょうじゆう あびごく い つこう
今また聴け。その人は命終して、阿鼻獄に入らん。一劫を
ぐそく こうつ
具足して、劫尽きなば、さらに生まれん。かくのごとく展転
むしゅこう いた
して、無数劫に至らん」

「ここにおいて死し已わって、さらに蟒身を受けん。そ
ぎよう ちようだい こひやくゆじゆん
の形は長大にして、五百由旬ならん」

「もしこの善男子・善女人、我滅度して後、能くひそか
いちにん ぜんなんし ぜんによにん われめつど のち よ
に一人のためにも、法華経の乃至一句を説かば、当に知る
ほけきよう ないしいつく と まさ し

べし、この人は則ち如来の使いにして、如来に遣わされて、
ひと すなわ によらい つか によらい つか
如来の事を行ず」

やくおう

あくにんあ

ふぜん こころ

いつこう

「薬王よ。もし悪人有つて、不善の心をもつて、一劫の

なか

げん ぶつぜん

つね ほとけ きめ

中において、現に仏前において、常に仏を毀罵せば、その

つみ

かる

ひと ひと あくごん

ざいけ しゅつけ

罪はなお軽し。もし人、一つの悪言をもつて、在家・出家の

ほけきよう どくじゆ

もの きし

つみ

おも

法華經を讀誦する者を毀皆せば、その罪ははなはだ重し」

やくおう

いまなんじ

つ

わ と

しよきよう

「薬王よ。今汝に告ぐ。我が説くところの諸經、しか

きよう なか

ほつけ もつと だいいち

もこの經の中において、法華は最も第一なり」

わ と

きようてん むりようせんまんおく

すで と

「我が説くところの經典は無量千万億にして、已に説き、

いまと

まさ と

なか

ほけきよう

今説き、当に説くべし。しかもその中において、この法華經

もつと

なんしんなんげ

は最もこれ難信難解なり」

「もし法師ほつしに親近しんこんせば、速すみやかに菩薩ぼさつの道どうを得え、この師しにずいじゆん がく ごうじや ほとけ み

随順ずいじゆんして学まなせば、恒沙ごうじやの仏ほとけを見みたてまつることを得えん」

「その時とき、宝塔ほうとうの中なかより大音声だいおんじようを出いだして、歎ほめて言のたまわ

く『善よきかな、善よきかな。釈迦牟尼世尊しゃかむにせそんは、能よく平等びようどう大慧だいえ、

菩薩ぼさつを教おしうる法ほうにして、仏ほとけの護念ごねんしたもうところの

妙法華經みようほけきようをもつて、大衆だいしゆのためとに説ときたもう。かくのごと

し、かくのごとし。釈迦牟尼世尊しゃかむにせそんの説ときたもうところのご

ときは、皆みなこれ真実しんじつなり』と」

「諸余しよよの經典きようてんは、数恒沙かずごうじやのごとし。これらを説とくといえ

ども、いまだ難かたしとなすに足たらず。もし須弥しゆみを接とつて、他方たほう

の無数の仏土に擲むしゆげ置ぶつどかんも、またいまだ難かたしとなさず。

もし仏の滅度して、悪世あくせの中なかにおいて、能よくこの経きようを説とか

ば、これは則すなわち難かたしとなす」

「諸もろもろの無智むちの人の、悪口あくく・罵詈めりとう等し、および刀杖とうじようを加くわ

うる者有ものあらん。我われらは皆当みなまさに忍しのぶべし。悪世あくせの中なかの比丘びくは、

邪智じゃちにして心諂曲こころてんげくに、いまだ得えざるを謂おもつて得えたりとなし、

我慢がまんの心こころは充満じゆうまんせん。あるいは阿練若あれんにやに納衣のうえにして空閑くうげん

に在あつて、自みづから真まことの道どうを行ぎようわずと謂おもつて、人にんげん間きようせんを軽賤きんげんす

ものあ りよう とんじやく ゆえ びやくえ ほう と
る者有らん。利養に貪著するが故に、白衣のために法を説

いて、世の恭敬するところとなること、六通の羅漢のごと
ろくつう らかん

くならん。常に大衆の中に在って我らを毀らんと欲するが
つね だいしゆ なか あ われ そし ほつ

故に、国王・大臣・婆羅門・居士および余の比丘衆に向か
ゆえ こくおう だいじん ばらもん こじ よ びくしゆ む
ひぼう わ あく と じゃけん ひと げどう ろんぎ

つて、誹謗して我が悪を説いて『これ邪見の人、外道の論議
と い じゃつこうあくせ なか おお もろもろ くふあ

を説く』と謂わん。濁劫悪世の中には、多く諸の恐怖有
あつき み い われ めり きにく じよくせ

らん。悪鬼はその身に入つて、我を罵詈・毀辱せん。濁世の
あくびく ほとけ ほうべん よろ したが と

悪比丘は、仏の方便、宜しきに随つて説きたもうところ
ほう し あつく ひんしゆく ひんずい

の法を知らず、悪口して顰蹙し、しばしば擯出せられん」

だいじんりき げん

「大神力を現じたもう。

こうちようぜつ

広長舌を出だして、

い

かみぼんせ

上梵世に至

しよぶつ

らしめ、諸仏もまたかくのごとく、広長舌を出だしたもう」

こうちようぜつ

い

もんじゆ

ふげん

かんのん

じぞうとう

りゆうじゆぼさつ

文殊・普賢・観音・地藏等、竜樹菩薩、

ぜんむい

こうぼう

じかく

ほうぞう

かじよう

ぜんどうとう

善無畏・弘法・慈覚・法蔵・嘉祥・善導等なり

ほう

よ

にん

よ

「法に依つて人に依らざれ」

いちにちいちや

一日一夜

ぎ

よ

ご

よ

「義に依つて語に依らざれ」

ねはんぎよう

涅槃経

ち

よ

しき

よ

「智に依つて識に依らざれ」

はちじゆうにゆうめつ

八十入滅

ほけきよう

法華経

「了義經に依つて不了義經に依らざれ」

かんぎようとう
観經等

だいにちきようとう
大日經等

じんみつきようとう
深密經等

けごんぎようとう
華嚴經等

はんにゃきようとう
般若經等